

教室の窓から

令和 7年
(2025年) 8月
来須 真紀

被爆80年によせて

1945年8月6日午前8時15分。広島に人類史上初の原子爆弾が投下されて今年で80年。今号では、ヒロシマと核、戦争、平和について書こうと思います。

「広島の平和教育」

広島市の小中学校では、学校教育の中で原爆や戦争についての学習をします。8月6日は登校日で全校生徒で平和祈念式典を見て、平和について考えます。広島市立の小中高等学校では「ひろしま平和ノート」という教材があり、系統立てて平和学習を進めます。プログラムの的にはきちんと系統立てられており、核兵器や戦争に対して様々な角度から学習することができます。

広島の平和教育の落とし穴

しかし、プログラムのすばらしさや広島の先生たちの熱意はあれど、ひろしまの平和教育を実際に受けて育った子どもたちの中には「核兵器反対」「戦争反対」って言うておけばとりあえず正解でしょという印象をもっている子どもや強烈的な恐怖を植え付けられている子どももいます。

多文化共生の中のひろしまの平和教育

また、外国籍の子どもたちも年々増えていることも平和教育の難しさになっています。私は授業中「日本め、原爆落ちてざまあみろ」といったことにも出会ったことがあります。この発言に私は大変考えさせられました。今現在の私の平和教育への考え方の原点になっている大切な言葉でもあります。

佐藤優さんと学ぶ中高生のための世界の安全と平和フォーラム

先日、表題のフォーラムのお手伝いをしてきました。フォーラムの中で佐藤さんは中高生たちに「広島での平和学習はとてよくできている。しかし、それは 守破離でいう守の部分。高校生、大学生は破離の部分にステップアップしなければならない」とおっしゃっていました。また、そのためにも「核兵器反対」「戦争反対」という立場の人ともダイアログ(対話)することが必要とのこと。なるほど!!。

アインシュタインとフロイトの話

先述のフォーラムでは課題図書がありました。「ひとはなぜ戦争をする

のか」です。この本は、1932年、第2次世界大戦直前。第1次世界大戦で多くの人が犠牲になった後、再び戦争の気配が高まってきている時期、国際連盟が「有名な知識人同士で平和について語る企画をたて、アインシュタインがフロイトを選び、書簡の交換をしたというものです。

アインシュタインはフロイトに「戦争はなぜ繰り返されるのか？国を滅ぼし、人を苦しめるのに。だから法律のように国際的なルールと強制力があればいいのではないか？でも、人間は感情的になるから宣伝にのせられて戦争を支持するからどうしたら人間の心は変えられるか？」聞きます。それにフロイトは「人間には生きたい、仲間とつながりたい、守りたいという生命本能(エロス)と壊したい、支配したい、相手を消したいという死の本能(タナトス)がある。戦争はこの死の本能が爆発した形。そして暴力は古いルールで動物も力の強いものが勝つ。人間も根っこは動物。戦争を減らすのには強く国際的なルールを作ることと人の心を教育すること(知識や事実を広め戦争の美化する嘘に騙されないようにする。そして仲間意識を人類全体に広げること)であると答えました。

第2次世界大戦が始まる前にこんなことを話していたお二人。本当にすごいなと思います。

佐藤さんのお話

フォーラムで佐藤氏は、核廃絶を目指すためには、核だけに焦点を当てて考えず、様々な視点から考えほしいと言われました。核兵器だけではなく核の平和利用のこと。核を平和利用をしたら経済はどう動くのか。その平和利用しようとしている国の歴史や背景。問題を多角的に広く見るということでしょうか？そしてそのために一生懸命勉強してほしいともいわれました。

私の所感

実は、私は被爆2世です。母は、0歳で入市被爆し、被爆者となりました。祖父は、職業軍人で8月6日は広島に勤務しており被爆しました。私個人は核と人類は共存できないと思っています。核兵器は悪で、核抑止など許されるものでは二と思っています。しかし、私は教員として多角的に戦争や核兵器、平和について子どもたちに伝えてきたのか佐藤氏のいう守の部分をしっかりやってきたのかと最近考えます。被爆80年に「伝えていく」責任だけではなく子どもたちに「何を伝え」「どのような力をつけるのか」を考え、実践していきたいと思っています。